

# 日本語教育に見る漢字使用について

萩原義雄

## はじめに

国語における漢字の占める位置を考えるうえで、まず、文字そのものについて概ね明らかにせねばならない。今日本語を学習するに及んで、話す以上に書くことが何故重要視されるかといえ、文字言語は伝える意味が理解できるまでそのままの形でいつまでも待ってくれるからである。そして繰り返し読むことが許されもする。日本人による文字の扱いが国際化が進むことにより制御しきれないほどことばの流れがヨーロッパ系の英語、仏語、独語、伊語、露語に留まらず、これに伴いあらゆる方向に文字までも細分化されつつあるからである。そこで日本語の主流である学校教育の現場である小学生部ではどうかといえ、ひらがな、カタカナ、漢字、そしてかろうじてローマ字が教授され、ローマ字については理解して使用する所までは至らないのにしても、この四様の文字を駆使して文章を作成しているのが現状である。そして、ことばが豊富になるにつれて、平仮名だけで文章を綴ることはやさしいがだらだらと長いことに気付き、文字列が長くなればなるほどこの単調さにうんざりする。音を表すことばだけでも片仮名で変化を付けてみようかということにもなる。確かに片仮名は平仮名だけの文章に弾みを付ける素にもなる。ところが、この片仮名ときたらいろいろと制約され、やれ外来語、やれ動植物名と使用範囲をつきつけられていてどうも使いにくくされてしまっている。ローマ字も学校で習ったローマ字と駅や町並みで目に入

るローマ字とは勝手に違っている。平仮名50字やローマ字26字は覚えてしまえば凡てのことばを表現することが可能だが、仮名やローマ字からは表音は理解できても表意までは難しい。表語の強さはやはり漢字ではないであろうか。たとえば、「そうえん (SOUEN)」という駅名を知ったこどもがどんな字を書くのと身近の大人に尋ねるのも「桑園」という漢字から意味を知ろうと勉めていることにほかならない。教える側も「桑」という樹木が多く繁殖している場所だったので「くわのその」と書くのだよ」と第一次説明がなされ、次に「くわ」は「又を三つ重ねて木と書くのだよ」そして「その」は「□の中に袁（遠足の遠の足をとった字）を書くのさ」とか、「動物園」の「エン」という字と同じさ」と第二次説明がなされるのである。日本語における漢字の役割は表音で「ソウエン」と発音され、「ソウ」と「エン」にそれぞれ「くわ」「その」といった和訓の表意が付随しているわけである。すなわち、日本語の漢字には中国語音による表音と日本語の意味を持つ表意の両方を含有した文字であることをまず認識させねばならないということである。この意味からも日本語習得に伴う漢字学習の在り方にいささか理論を述べる予知が潜んでいるかと考えるのである。すなわち、ここで漢字を習得することは表音意の両方からことばの広がりにもなるわけである。

### 漢字との係わり方

日本語における漢字はあくまでもことばが豊富になることにより、はじめてその力を発揮するものなのである。すなわち、最初から漢字だけの読み書きができてそのままならぬものがある。アジア系漢字語圏における微妙な意味の食い違いが関与していることから逆に導入方法さえ正しく行われたらヨーロッパ非漢字語圏の習得者の方が漢字を図形文字として、よりすんなり理解できるケースが多いのではないかと私は思うのである。たとえば、中国人留学生にとって、木篇や魚篇の漢字には必ず

しも同じものを示すとは限らないことは既に他方面からのアプローチにより指摘されている。<sup>注2</sup>さらに、音そのものが自国語の漢字音と異なる音形を用いていることもある。字体そのものが変化していることもある。何よりも語彙そのものの数が異なる点にある。中級段階に達した両者の学習意欲の倦怠と推進という大きな格差を拡げる所以となっているのではなからうか。さすれば、導入手続きとして今回日本語をある程度会話できる力を身に付けたアメリカ人留学生が日本文化事情や歴史に興味を示し、漢字学習（魚と植物樹木に焦点を据えた内容）へと踏み出して行けると判断した上でのことである。そして、このような様々な問題<sup>注3</sup>を日本人である私達が今普及のワープロやパソコンに付き会いだして、どう取り組んでいるかということ<sup>注4</sup>を再認識しながら、これらの漢字理解についてあためてみることにする。というのも留学生にとって、ワープロはタイプライターの延長上に位置し、ローマ字入力が可能であり、比較的馴染みやすいこともあるからである。

### 水準漢字の扱いと日本語漢字教育

ワープロやパソコンにおいてはJIS規準による漢字表が使用され、第一水準と第二水準の二種類の漢字群が用意されている。このうち、第一水準の漢字群は五十音順に配列がなされ、日本語のことばをある程度理解していれば漢字に変換ができる仕組みになっている。そのため普段使用しない漢字<sup>注4</sup>までを表示してしまう傾向が強くなる。また、日本語における同音異義<sup>注5</sup>のことばは漢字変換の手続き上厄介なものともなる。

次に第二水準の漢字群ではどうだろうか。第二水準の漢字群は扁旁冠脚の部首で配列がなされ、字形を手掛かりに検索せねばならない。すなわち、漢字の音訓を知っていてもJISコード表を読むことはできない。まず、扁旁冠脚の部首を理解したうえで字形に近づき目指す漢字を探り当て、縦横のコード番号を読まねばならない。この問題を解決するため

新型の機種が開発され、今では第二水準の漢字でも直接音訓表示で呼び出すことが可能になった。しかし、これにも限度があり、すべての第二水準漢字とまではいかないのである。そこで、書き手が辞書登録による「ことば」群を設け、新たなる語を加える方法が用いられてきた。

そして、この二種類の漢字コード表のありかたは私達日本人が利用する国語辞典と漢和辞典の仕組みを踏襲したものであり、先程示した漢字語圏と非漢字語圏の日本語習得者の漢字理解における出発点ともよく似ているのではなかろうか。漢字語圏者は漢字音をたよりにして日本語の漢字に迫ることが考えられ、非漢字語圏者は字形をたよりに日本語の漢字習得に入ることになる。この両方の仕組みにただただ迷い、辿り着く漢字群が異なるとなれば二種類の漢字群をいかに選別すればよいかということにもなる。そこで、木篇及び魚篇<sup>注6</sup>の二種類の漢字群について実際のところどんなことになるか考えてみたい。

次に木篇及び魚篇の二種類の漢字群を掲示してみる。

### JIS 第一水準漢字の木篇及び魚篇一覧

[四画] 木 [五画] 札未末本 [六画] 机朽朱朴 [七画] 杏材村束杖杓李空条杜杉 [八画] 果杵杭枝板杷枢析松東枚林枕枇杯梓 [九画] 柔柑柿枯架柴栄查柵柊母柚柄怔柁枋柳某柘柱柏 [十画] 根桑桜桓核校案桔桧格桁株栗栽桂栢棧桐梅栓栴桃栖榭 [十一画] 梢梓桶梱梶梗械梁梨梯棣 [十二画] 椅檢森棲椏植椳棋棺棒棕棟椀椎棉棚 [十三画] 業楯楚椿棄楯極樂檜楫楊楼楓楠榎 [十四画] 榎榭概槍榛槌構楨榔模 [十五画] 榎榭概槍榛槌構楨榔模 [十六画] 樵橋樹榿橡機樺橋 [十七画] 榿橋樹榿橡機樺橋 [十九画] 櫛 [二十画] 欄櫛 (156字)

[十一画] 魚 [十六画] 鮎鮒 [十七画] 鮫鮮鮭鮪 [十八画] 鯉 [十九画] 鯖鯨鯛 [二十画] 鰻鰐 [二十一画] 鱈鰯 [二十二画] 鯉鱈鰻



異国の留学生には単なる飾りに過ぎず、邪魔な漢字の配列といううことになっているのが現状である。しかし、水準漢字そのものは教育情報システム上、今や抜き差しのできない代物であるからして、この中から日本語習得初期に必要な漢字一覧を作成していくことが要望されてくるのである。現代日本語習得を考えて編まれた教育漢字及び常用漢字の木篇と魚篇を参考までに示してみよう。

木未末本札朱机朽朴材村束来条杉杯東松板析林枚果枝枢枕梓枯架柄  
某染柔查柱柳栄校株核根桜格栽桃案桑梅棧栓械棋棒森棺植檢極棟棚  
棄業樂楼構概模様標権横槽樹橋機欄（73字）

魚鮮鯨（3字）

### 『草枕』の木篇及び魚篇の漢字

この中でも私達日本人が実際に日常活用する漢字は少なく、さらに限定されている。たとえば、明治期の文豪である夏目漱石の作品『草枕』<sup>注7</sup>からでは、第一水準と第二水準に属する木篇（347字）及び魚篇（72字）の漢字中、次に表示する106字種である。この一覧の各字種の前に付した数字は、大修館「漢語林」の検字番号で、字種の後の数字はそれぞれの使用頻度である。その使用漢語と使用数を各字種の下に添えた。

### 『草枕』木篇及び魚篇の漢字一覧

検字番号	字種	使用頻度
3135	木	41
	モク	材木 1 撞木 1 木庵 1 木蘭 2 木蓮 6
	き	木 4 植木鉢 1 唐木 2 雑木 2 雑木林 2
		雑木山 1
	こ	木の間 1
		木瓜 15 白木綿 1 鼠木綿 1

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

検字番号	字種	使用頻度
3136	札	2
	サツ	<sup>かいさつば</sup> 改札場 1
	ふだ	<sup>おふだ</sup> 御札 1
3138	本	66
	ホン	<sup>ほん</sup> 本 2 <sup>ほんけ</sup> 本家 3 <sup>ほんごく</sup> 本國 1 <sup>ほんすぢ</sup> 本筋 1 <sup>ほんたう</sup> 本當 4 <sup>ほんだう</sup> 本堂 6
		<sup>ほんにん</sup> 本人 2 <sup>ほんらい</sup> 本來 3 <sup>ほんりやう</sup> 本領 1 <sup>ほん</sup> 五本 1 <sup>ほん</sup> 三四本 1
		<sup>にほん</sup> 日本 6 <sup>にほんいち</sup> 日本一 1 <sup>にほんご</sup> 日本語 8 <sup>にほんばし</sup> 日本橋 2
		<sup>ひょうほん</sup> 標本 1
	ポン	<sup>ほん</sup> 一本 6 <sup>いつほん</sup> 一本々々 1 <sup>ほん</sup> 八本 1 <sup>ほん</sup> 十本 1 <sup>ほんあし</sup> 一本足 1
		<sup>いつほんみち</sup> 一本道 1 <sup>なんほん</sup> 何百本 1 <sup>にっぽん</sup> 日本 1 <sup>こんほん</sup> 根本 2 <sup>こんほんぎ</sup> 根本義 1
	ボン	<sup>ほん</sup> 三本 4 <sup>なんまんほん</sup> 何十萬本 1 <sup>ほん</sup> 二三本 1 <sup>ほん</sup> 百萬本 1
3139	末	11
	マツ	<sup>しまつ</sup> 始末 2
	すゑ	<sup>すゑ</sup> 末 7 <sup>ゆくへ</sup> 行末 2
3140	未	9
	ミ	<sup>みれん</sup> 未練 2
	いまだ	<sup>いまだ</sup> 未だ 5 <sup>まだ</sup> 未だ 2
3141	机	12
	つくゑ	<sup>つくゑ</sup> 机 12
3142	朽	1
	くちる	<sup>く</sup> 朽ちかゝつ 1
3144	朱	3
	シユ	<sup>しゅうるし</sup> 朱漆 1 <sup>しゅでい</sup> 朱泥 1 <sup>しゅぬ</sup> 朱塗り 1
3145	朶	2
	ダ	<sup>いくだ</sup> 幾朶 1 <sup>いちだ</sup> 一朶 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3153	杞	1
	コ	枸杞 1
3154	杏	6
	キヤウ	杏坪 2
	チヤウ	银杏返し 4
3158	材	4
	ザイ	材木 1 材料 3
3159	杉	3
	すぎ	杉 3
3162	杖	2
	つゑ	頬杖 2
3163	束	2
	つか	束の間 2
3164	村	15
	ソン	孤村 2 蕪村 2
	むら	村 6 村中 1 村役場 1 小村 1 藤村子 2
3167	杓	9
	シヤク	杓子 7 小杓子 1 銀杓 1
3170	來	173
	ライ	往來 5 元來 3 古來 3 天來 1 二十年來 1 本來 1 來世 1 來年 1
	く	來 60 來り 4 來る 1 出來 42 出來上つ 2 出來事 5 出來る 18 來る 15 拾ひ來つ 1 持ち來つ 1 來 7 もつて來い 1
3174	杗	3
	モク	杗 1 杗兵衛 2



日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

検字番号	字種	使用頻度
3176	果	21
	グワ	<sup>いんが</sup> 因果 9
	はつ	<sup>はた</sup> 果し 2 <sup>はた</sup> 果して 1 <sup>はた</sup> 果す 1 <sup>は</sup> 果て 4 <sup>あ</sup> 荒れ <sup>は</sup> 果て 1
		<sup>つ</sup> 盡き <sup>は</sup> 果て 1 <sup>はて</sup> 果しなく 1
		<sup>はか</sup> 果敢なき 1
3180	枝	23
	えだ	<sup>えだ</sup> 枝 20 <sup>えだうつ</sup> 枝移り 1 <sup>えだぶり</sup> 枝振 1 <sup>ひとえだ</sup> 一枝 1
3183	松	26
	まつ	<sup>まつ</sup> 松 23 <sup>あかまつ</sup> 赤松 2 <sup>まつながちやう</sup> 松永町 1
3187	柄	1
	ゼイ	<sup>あんぜいはうさく</sup> 圓柄方鑿 1
3188	析	1
	セキ	<sup>ぶんせき</sup> 分析 1
3191	枕	10
	まくら	<sup>まくら</sup> 枕 4 <sup>まくらもと</sup> 枕元 6
3192	東	16
	トウ	<sup>ここんとうざい</sup> 古今東西 1 <sup>とうざい</sup> 東西 2 <sup>とうきやう</sup> 東京 9 <sup>とうり</sup> 東籬 1 <sup>とうやう</sup> 東洋 1
	ひがし	<sup>ひがし</sup> 東 1 <sup>ひがしがは</sup> 東側 1
3194	杯	1
	パイ	<sup>ばい</sup> 一杯 1
3195	板	5
	パン	<sup>かんばん</sup> 甲板 1
	いた	<sup>こ</sup> て <sup>いた</sup> いた 1 <sup>いたこ</sup> 板子 1 <sup>いたびさし</sup> 板庇 2
3200	枚	14
	マイ	<sup>まい</sup> 一枚 10 <sup>まい</sup> 二枚 1 <sup>まいしやうざ</sup> 一枚床几 1 <sup>まい</sup> 五六枚 1
		<sup>なんまい</sup> 何枚 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3201	林	3
	リン	<sup>しんりん</sup> 深林 1
	はやし	<sup>ざふきばやし</sup> 雑木林 2
3203	枡	1
	ます	<sup>しやうます</sup> 一升枡 1
3208	架	5
	カ	<sup>しよか</sup> 書架 1 <sup>くわか</sup> 晝架 2 <sup>ひつか</sup> 筆架 2
3212	柑	14
	カン	<sup>みかんばたけ</sup> 蜜柑 島 3 <sup>みかん</sup> 蜜柑 7 <sup>みかんやま</sup> 蜜柑山 3 <sup>みかんと</sup> 蜜柑取り 1
3218	枸	1
	ク	<sup>くこ</sup> 枸杞 1
3219	枯	2
	かる	<sup>か</sup> 枯れ 2
3221	査	3
	サ	<sup>けんさ</sup> 検査 1 <sup>じゆんさ</sup> 巡査 2
3222	柵	3
	サク	<sup>てつさく</sup> 鐵柵 3
3230	柔	8
	やわらか	<sup>やはら</sup> 柔かい 2 <sup>やは</sup> 柔らかか 4 <sup>やはら</sup> 柔か 2
3232	染	11
	そむ	<sup>そ</sup> 染め 2 <sup>そ</sup> 染むる 2 <sup>そぬ</sup> 染め抜い 1 <sup>そぬ</sup> 染め抜く 1
		<sup>そえ</sup> 染め得 1 <sup>みそ</sup> 見染め 1
	しむ	<sup>にし</sup> 煮染ん 1 <sup>いなかじ</sup> 田舎染み 1 <sup>しこ</sup> 染み込ん 3
3236	柱	6
	はしら	<sup>はしら</sup> 柱 4 <sup>しもばしら</sup> 霜柱 1 <sup>はなばしら</sup> 鼻柱 1

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

検字番号	字種	使用頻度
3243	柄	4
	え	<sup>え</sup> 柄 1 <sup>とりえ</sup> 取柄 1
	がら	<sup>あひだ</sup> 間柄 1 <sup>しやうばい</sup> 商賣柄 1
3246	柳	8
	リウ	<sup>やうりうくわん</sup> 楊柳観 1
	やなぎ	<sup>やなぎ</sup> 柳 7
3251	案	6
	アン	<sup>あんない</sup> 案内 3 <sup>しあん</sup> 思案し 1 <sup>づあん</sup> 圖案 1 <sup>ふあんない</sup> 不案内 1
3258	格	9
	カク	<sup>かくべつ</sup> 格別 1 <sup>こつかく</sup> 骨格 1 <sup>しかく</sup> 資格 3 <sup>じんかく</sup> 人格 3
	コウ	<sup>たけがうし</sup> 竹格子 1
3266	桂	1
	かつら	<sup>かつら</sup> 桂 1
3270	校	2
	コウ	<sup>がくかう</sup> 學校 1
	ケウ	<sup>けんぎやう</sup> 檢校 1
3273	根	14
	コン	<sup>こんぽん</sup> 根本 2 <sup>こんぽんぎ</sup> 根本義 1 <sup>あかだいこん</sup> 赤大根 1
	ね	<sup>ね</sup> 根 4 <sup>ね</sup> 根こぎ 1 <sup>ねもと</sup> 根元 1 <sup>こころね</sup> 心根 1 <sup>やね</sup> 屋根 1
		<sup>やねがはら</sup> 屋根瓦 2
3274	栽	1
	うう	<sup>うまこ</sup> 栽込み 1
3279	株	3
	かぶ	<sup>こかぶ</sup> 小株 1 <sup>ふたかぶみかぶ</sup> 二株三株 1 (2)
3283	栓	1
	しん	<sup>しんばり</sup> 栓張 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3287	桃	3
	タウ	<small>たうげん</small> 桃源 2
	もゝ	<small>しろもい</small> 白桃 1
3289	梅	3
	バイ	<small>だいばいじ</small> 大梅寺 1 <small>ばいそうしんぜん</small> 梅棕森然とし 1
	うめ	<small>うめ</small> 梅 1
3295	械	1
	カイ	<small>き かいてき</small> 器械的 1
3307	梢	2
	セウ	<small>じゆせう</small> 樹梢 2
3161	條	4
	ジャウ	<small>でうけん</small> 條件 3
	すち	<small>ひとすち</small> 一條 1
3313	梯	1
	はし	<small>はし ご だん</small> 梯子段 1
3321	梵	7
	ボン	<small>ほろんじ</small> 梵論字 7
3322	梨	1
	リ	<small>りくわ</small> 梨花 1
3325	椶	2
	ロ	<small>しゆろ</small> 棕椶 1 <small>しゆろ ぼうき</small> 棕椶箒 1
3326	梁	1
	リヨウ	篆煙繞竹梁 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3335	極	16
	キヨク	<sup>きよくたん</sup> 極端 2 <sup>きよくど</sup> 極度 1 <sup>きよくりよく</sup> 極力 1
	ゴク	<sup>ごくごく</sup> 極々 1 <sup>しごく</sup> 至極 1
	きはむ	<sup>きはみ</sup> 極 1 <sup>きは</sup> 極み 1 <sup>きは</sup> 極め 7 <sup>きま</sup> 極つ 1
3344	植	5
	シヨク	<sup>いしよく</sup> 移植 1 <sup>しよくぶつ</sup> 植物 1
	うう	<sup>う</sup> 植ゑ 2 <sup>うゑきばち</sup> 植木鉢 1
3345	森	4
	シン	<sup>しん</sup> 森とし 1 <sup>しんかん</sup> 森閑とし 1 <sup>ばいそうしんぜん</sup> 梅棕森然とし 1 <sup>しんら</sup> 森羅 1
3350	棕	3
	シユ	<sup>しゆる</sup> 棕梠 1 <sup>しゆるぼうき</sup> 棕梠箒 1 <sup>ばいそうしんぜん</sup> 梅棕森然とし 1
3354	棹	2
	さを	<sup>さを</sup> 棹 1 <sup>ふとざお</sup> 太棹 1
3356	棟	4
	むね	<sup>むね</sup> 棟 4
3357	棠	9
	ダウ	<sup>かいだう</sup> 海棠 8    海棠 1
3360	棚	13
	たな	<sup>たな</sup> 棚 3 <sup>たなび</sup> 棚引い 1 <sup>たなび</sup> 棚引く 1 <sup>ちが</sup> <sup>だな</sup> 違ひ棚 1 <sup>と</sup> <sup>だな</sup> 戸棚 7
3362	棒	5
	ボウ	<sup>てつぼう</sup> 鐵棒 1 <sup>どろぼう</sup> 泥棒 1 <sup>ぼう</sup> ぶつきら棒 1 <sup>べらぼう</sup> 筧棒 1 <sup>みちんぼう</sup> 微塵棒 1
3367	椀	3
	ワン	<sup>わん</sup> 椀 3
3373	楷	1
	はし	<sup>はしごだん</sup> 楷子段 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3376	棄	6
	キ	<sup>ほうき</sup> 放棄 2
	すつ	<sup>す</sup> 棄て 1 <sup>す</sup> 棄て去る 1 <sup>す</sup> 棄てる 1
		<sup>やけ</sup> 自棄 1
3377	業	8
	ゲフ	<sup>しゆげふ</sup> 修業 5 <sup>しよくげふ</sup> 職業 1 <sup>なんしげふ</sup> 難事業 1
	ゴフ	<sup>ちやうごふ</sup> 定業 1
3386	楚	1
	ソ	<sup>そぜん</sup> 楚然とし 1
3391	楮	1
	チヨ	<sup>ちよがう</sup> 楮毫 1
3392	椿	13
	つばき	<sup>つばき</sup> 椿 11 <sup>おちつばき</sup> 落椿 1 <sup>みやまつばき</sup> 深山椿 1
3395	椽	12
	エン	<sup>えん</sup> 椽 7 <sup>えんいた</sup> 椽板 1 <sup>えんがは</sup> 椽側 3 <sup>えんばな</sup> 椽鼻 1
3404	楊	1
	ヤウ	<sup>やうりうくわんのん</sup> 楊柳觀音 1
3206	榮	3
	エイ	<sup>きよえいしん</sup> 虚榮心 1 <sup>えいじよくとくさう</sup> 榮辱得喪 1
	はえ	<sup>をりばえ</sup> 折榮 1
3414	概	1
	ガイ	<sup>たいがい</sup> 大概 1
3421	構	31
	コウ	<sup>こうせい</sup> 構成 1 <sup>けつこう</sup> 結構 11
	かまふ	<sup>かま</sup> 構は 10 <sup>かま</sup> 構ひ 2 <sup>かま</sup> 構ふ 1 <sup>かま</sup> 構へ 3 <sup>かま</sup> 構や 1
		<sup>ひとかまへ</sup> 一構 2

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3441	模	11
	モ	<sup>もはん</sup> 模範 1 <sup>もやう</sup> 模様 8 <sup>すそもやう</sup> 裾模様 2
3443	榜	1
	バウ	<sup>ひようぼう</sup> 標榜 1
3375	樂	23
	ラク	<sup>らく</sup> 樂な 1 <sup>きらく</sup> 氣樂 7 <sup>しらく</sup> 至樂 1 <sup>はくらくてん</sup> 白樂天 1
	ガク	<sup>がく</sup> 樂 1 <sup>おんがく</sup> 音樂 4 <sup>がくき</sup> 樂器 1
	たのしむ	<sup>たのしみ</sup> 樂 3 <sup>たのし</sup> 樂ま 1 <sup>たのし</sup> 樂み <sup>たのし</sup> 樂ん 1 <sup>たの</sup> 樂しん 1
3466	槽	7
	ふね	<sup>ふね</sup> 槽 5 <sup>ゆふね</sup> 湯槽 2
3471	標	4
	ヒヨウ	<sup>ひようち</sup> 標置 1 <sup>ひようぼう</sup> 標榜 1 <sup>ひようほん</sup> 標本 1
	き	<sup>うき</sup> 浮標 1
3445	様	208
	ヤウ	<sup>やう</sup> 様 115 <sup>やうす</sup> 様子 13 <sup>いかやう</sup> 如何様 1 <sup>いやう</sup> 異様 1 <sup>きやう</sup> 來様 1 <sup>しやう</sup> 仕様 1 <sup>さやう</sup> 左様 3 <sup>どうやう</sup> 同様 4 <sup>みやう</sup> 見様 4 <sup>もやう</sup> 持ち様 1 <sup>もやう</sup> 模様 8 <sup>すそもやう</sup> 裾模様 1 <sup>りやうやう</sup> 兩様 1
	さま	<sup>さま</sup> 様 7 <sup>ありさま</sup> 有様 8 <sup>おくさま</sup> 奥様 3 <sup>おふくろさま</sup> 御袋様 1 <sup>おや</sup> 親ご様 1 <sup>だいてつさま</sup> 大徹様 1 <sup>だんなさま</sup> 旦那様 2 <sup>ちやうさま</sup> 嬢様 19 <sup>さかさま</sup> 逆様 1 <sup>さま</sup> つゞけ様 1 <sup>ほとけさま</sup> 佛様 1 <sup>まつさかさま</sup> 眞逆様 1 <sup>をしやうさま</sup> 和尚様 1 <sup>さまさま</sup> 様々 1
	ない	<sup>こない</sup> 此様 1
	う	<sup>さう</sup> 左様 5
3408	樓	3
	ロウ	<sup>でんろう</sup> 殿樓 1 <sup>しゆろう</sup> 鐘樓 1 <sup>ろうじやう</sup> 樓上 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3452	横	15
	よこ	<small>よこ</small> 横 4 <small>よこがほ</small> 横顔 2 <small>よこぎ</small> 横切る 2 <small>よこて</small> 横手 1 <small>よこはび</small> 横幅 1 <small>よこた</small> 横 はり 1 <small>よこた</small> 横 はる 2 <small>よこはら</small> 横腹 1 素琴横虚堂 1
3478	機	7
	キ	<small>き かい</small> 機 會 1 <small>き せい</small> 機 勢 1 <small>き せん</small> 機 先 1 <small>き ほう</small> 機 鋒 1 <small>どう き</small> 動 機 1 <small>はた</small> 機 2
	はた	
3480	橋	11
	ケウ	<small>けうはん</small> 橋 畔 1
	はし	<small>はし</small> 橋 2 <small>こばし</small> 小 橋 1 <small>すがた み ばし</small> 姿 見 橋 1 <small>に ほんばし</small> 日 本 橋 3 <small>りゆうかんばし</small> 龍 閑 橋 2 <small>はしがい</small> 橋 懸り 1
3482	楸	1
	ケツ	<small>かん し けつ</small> 乾 尿 楸 1
3484	樹	16
	ジュ	<small>じゆ か</small> 樹 下 1 <small>じゆりつ</small> 樹 立 2 <small>じゆせう</small> 樹 梢 2 <small>は わうじゆ</small> 霸 王 樹 1 <small>はくじゆ し</small> 柏 樹 子 1 <small>き</small> 樹 6 <small>う</small> 樹 糸 1 <small>さ ほてん</small> 霸 王 樹 2
	き	
	うう	
3506	檜	2
	ひのき	<small>ひのき</small> 檜 2
3340	檢	3
	ケン	<small>てんけん</small> 點 檢 1 <small>けんぎやう</small> 檢 校 1 <small>けん さ</small> 檢 査 1
3515	檀	2
	タン	<small>し たん</small> 紫 檀 2
3517	槩	2
	バク	<small>わうばく</small> 黄 槩 2



日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
3525	檻	2
	カン	<sup>かんせい</sup> 檻穿 1
	おり	<sup>おり</sup> 檻 1
3527	櫛	1
	くし	<sup>くしめ</sup> 櫛目 1
3535	欄	7
	ラン	<sup>らんかん</sup> 欄干 5 <sup>らんま</sup> 欄間 1 <sup>あじらん</sup> 亞字欄 1
3256	櫻	14
	さくら	<sup>さくら</sup> 櫻 8 <sup>やまざくら</sup> 山櫻 6
3458	權	7
	ケン	<sup>けんり</sup> 權利 4 <sup>けんい</sup> 權威 1 <sup>けんのう</sup> 權能 1 <sup>しよゆうけん</sup> 所有權 1
8478	魚	2
	さかな	<sup>さかな</sup> 魚 2
8494	鮒	1
	ふな	<sup>ふな</sup> 鮒 1
8506	鮮	4
	あざやか	<sup>あざや</sup> 鮮か 3 <sup>あざ</sup> 鮮やか 1
8577	鱗	
	リン	<sup>さいりん</sup> 細鱗 1
	うろこ	<sup>うろこ</sup> 鱗 2

このうち、非水準漢字（外字登録によって作成する文字）は「桝、檝」の二字にすぎない。教育漢字及び常用漢字から外れるものは、「椽楷檜柑檻杏桂枸杞柵杓棕梢枿杖櫛楚槽朶檀楮枕梯棹棠檠梵空楊梨梁栲椀」（33字）、「鮮鮒鱗」（3字）の漢字である。植物名として用いられる「椽（ひのき）」「蜜柑（ミカン）」「銀杏（ギンナン）」「枸杞（クコ）」「棕栲

(シユロ)」「海棠 (カイドウ)」「楊柳 (ヨウリュウ)」「梨 (なし)」「桂 (かつら)」等、それから日本の生活様式を理解する上で木を材料にした建て具類を表す「梁 (うつぱり)」「椽側 (エンがわ)」「檻 (おり)」「柵 (サク)」や道具類を表す「杓子 (シヤもじ)」「枘 (ます)」「杖 (つえ)」「櫛 (くし)」「浴槽 (ヨクソウ)」「枕 (まくら)」「茶碗 (チャワン)」等が含まれ、日本語の漢字を習得するだけならいざしらず、日本の文化事情を理解する留学生にとってはこれらの語は漢字のもつ表音・表意性から学習に不可欠なものになってくる。これらの漢字を筆順<sup>注8</sup>に従って書くことは不可能としても読み取る力が要求されてくるのである。まして、ワープロを使用することではキー入力のため、留学生にとって筆順を意識することなく漢字を自分自身で表記することができるので進める次第である。逆からいえば、漢字の筆順を学ばないことになる。これについては様々な異論が醸し出されるであろうが、私は敢て筆順を重要視して学習することをしなかった。日本人の小学生でも筆順は完璧にはいかず、たとえば、「業」の筆順ひとつにしても文字記憶法で「タテタテチョン チョン ヨコチョンチョン ヨコヨコヨコタテ チョーンチョン」と苦心して覚えていくのであるが、この書き出しですら横から先に「チョン チョン」と書いてしまうケースが見受けられる。むしろ、筆順は早期に身に付けるのにこしたことはないが、ある程度漢字を習得できた段階で覚えるのがよいのではなかろうか。

### 木の構成要素を有する文字

さらに、夏目漱石の『草枕』から木の構成要素を有する文字が使用されていることに気がつく。

相廂想箱霜刺頼懶顆刹雜囀親新薪床休保体鉢味味寐抹珠蛛辣徠煉練  
裸菓菜彩採菜淋琳煤傑揉皦嶸操藻蝶喋漆膝深探焚麓襟歷麻磨摩魔靡

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

魔策茶葉藁薬困閑蘭欄 (70字)

検字番号	字種	使用頻度
4759	相	23
	サウ	相 <sup>さう</sup> 1 相好 <sup>さうがう</sup> 1 相場 <sup>さうば</sup> 1 相違 <sup>さうゐ</sup> 5 色相世界 <sup>しきさう せかい</sup> 1 實相 <sup>じつさう</sup> 1
	あひ	相容 <sup>あひい</sup> る 1 相顧 <sup>あひかへり</sup> み 1 相客 <sup>あひきやく</sup> 1 相手 <sup>あひて</sup> 6 相照 <sup>あひてらす</sup> 1 相中 <sup>あひなか</sup> 1 相摩 <sup>あひまかつ</sup> 憂 <sup>い</sup> し 1 相交 <sup>あひまじ</sup> はる 1
2148	想	15
	サウ	御愛 <sup>おあいそ</sup> 想 <sup>そ</sup> 1 可哀 <sup>かわいそ</sup> 想 <sup>そ</sup> 1 観 <sup>かんさう</sup> 想 <sup>さう</sup> 2 懸 <sup>けさう</sup> 想 <sup>さう</sup> 2 冥 <sup>めいさう</sup> 想 <sup>さう</sup> 1 理 <sup>りさう</sup> 想 <sup>さう</sup> 1 連 <sup>れんそう</sup> 想 <sup>さう</sup> し 1 連 <sup>れんさう</sup> 想 <sup>さう</sup> する 1 想 <sup>さうざう</sup> 像 <sup>ざう</sup> 2 想 <sup>さうざう</sup> 像 <sup>ざう</sup> し 1 想 <sup>さうざう</sup> 像 <sup>ざう</sup> せ 1
	おもい	想 <sup>おもひ</sup> 1
8013	霜	3
	サウ	星 <sup>せいさう</sup> 霜 <sup>さう</sup> 1
	しも	霜 <sup>しも</sup> 1 霜柱 <sup>しもばしら</sup> 1
5240	箱	10
	はこ	箱 <sup>はこ</sup> 2 菓子箱 <sup>かしぼこ</sup> 1 駄菓子箱 <sup>だ が しぼこ</sup> 1 繪の具箱 <sup>ま く ぼこ</sup> 6
1910	廂	2
	ひさし	廂 <sup>ひさし</sup> 2
574	刺	10
	シ	名刺 <sup>めいし</sup> 1 刺激 <sup>しげき</sup> 7
	とげ	刺 <sup>とげ</sup> 1
	さす	刺 <sup>さ</sup> され 1
8150	頼	14
	たのむ	御頼 <sup>おたの</sup> み 2 頼 <sup>たよつ</sup> 1 頼 <sup>たの</sup> ま 3 頼 <sup>たの</sup> まれもの 1 頼 <sup>たの</sup> み 3 頼 <sup>たの</sup> む 2 頼 <sup>たの</sup> もう 1 頼 <sup>たのま</sup> ん 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
2369	懶	1
	ものうい	<sup>ものう</sup> 懶き 1
7257	辣	1
	ラツ	<sup>らつわん</sup> 辣腕 1
8152	顆	1
		<sup>いくつ</sup> 幾顆 1
3628	殺	2
	ころす	<sup>ころ</sup> 殺さ 1 <sup>ひ</sup> 引き <sup>ころ</sup> 殺さ 1
576	刹	6
	セツ	<sup>いつせつな</sup> 一刹那 2 <sup>せつな</sup> 刹那 4
7969	雜	11
	ザツ	<sup>さくざつ</sup> 錯雜 1 <sup>ざつしゆ</sup> 雜種 1 <sup>ざつわ</sup> 雜話 1 <sup>ふくざつ</sup> 複雜 2
	ザフ	<sup>ざふき</sup> 雜木 2 <sup>ざふきばやし</sup> 雜木林 1 <sup>ざふきやま</sup> 雜木山 1 <sup>むざふさ</sup> 無雜作 1
	まぜる	<sup>かま</sup> 攪き雜ぜ 1
1099	噓	1
	はやす	<sup>はや</sup> 噓し 1
6637	親	25
	シン	<sup>ごしんせつ</sup> 御親切 1 <sup>ごしんるい</sup> 御親類 1 <sup>しんるい</sup> 親類 1
	おや	<sup>おやかた</sup> 親方 19 <sup>おや</sup> 親 <sup>さま</sup> ご様 1 <sup>おやぶん</sup> 親分 1
	したしい	<sup>した</sup> 親しい 1
2806	新	2
	シン	<sup>ごしんぞ</sup> 御新造 1
	あたらし	<sup>あた</sup> 新しい 1
6205	薪	2
	まき	<sup>まき</sup> 薪 2

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

検字番号	字種	使用頻度
1892	床	21
	シヨウ	<sup>しょうぎ</sup> 床几3 <sup>まいしょうぎ</sup> 一枚床几1
	とこ	<sup>とこ</sup> 床9 <sup>かみゆひとこ</sup> 髪結床2 <sup>ひらとこ</sup> 平床1 <sup>とこぜんたい</sup> 床全体1
	ゆか	<sup>ゆか</sup> 床1 <sup>ゆか</sup> 床しい1 <sup>おくゆか</sup> 奥床しく2
144	休	4
	キユウ	<sup>りきゆう</sup> 利休1
	やすむ	<sup>おやす</sup> 御休み1 <sup>やす</sup> 休む1 <sup>やす</sup> 休ん1
256	保	18
	ホ	<sup>しほた</sup> 志保田11 <sup>しほた</sup> 志保田さん1 <sup>ほやう</sup> 保養1
	たもつ	<sup>たも</sup> 保ち1 <sup>たも</sup> 保ちかね1 <sup>たも</sup> 保つ3
180	体	46（但し、旧字体では「體」181の用字を使用）
	タイ	<sup>たい</sup> 体3 <sup>いったい</sup> 一体3 <sup>こたい</sup> 個体1 <sup>ししごたい</sup> 四肢五体1 <sup>しふたい</sup> 醜体1 <sup>しよたい</sup> 書体2 <sup>しやうたい</sup> 正体2 <sup>じんたい</sup> 人体1 <sup>ぜんたい</sup> 全体3 <sup>たい</sup> 体し1 <sup>もつたい</sup> 勿体ない2 <sup>もつたいぶ</sup> 勿体振つ1 <sup>たいく</sup> 体軀2 <sup>らたいくわ</sup> 裸体畫3 <sup>らたいびじん</sup> 裸体美人1
	テイ	<sup>てい</sup> 体3 <sup>ありてい</sup> 有体3 <sup>ぜんてい</sup> 全体1 <sup>ぜんてえ</sup> 全体1 <sup>からだ</sup> 身体6 <sup>ほだか</sup> 裸体5
7641	鉢	6
	はち	<sup>うゑきはち</sup> 植木鉢1 <sup>かしばち</sup> 菓子鉢1 <sup>はち</sup> 鉢4
892	味	44
	ミ	<sup>み</sup> 味1 <sup>ありがたみ</sup> 難有味1 <sup>あをみ</sup> 青味1 <sup>いみ</sup> 意味4 <sup>うすきみ</sup> 薄気味1 <sup>おそみ</sup> 恐ろし味1 <sup>おもしろみ</sup> 面白味2 <sup>おもみ</sup> 重味1 <sup>がみ</sup> 雅味2 <sup>きみ</sup> 気味4 <sup>きようみ</sup> 興味3 <sup>ざんみ</sup> 吟味1 <sup>しみ</sup> 詩味1 <sup>しやみ</sup> 三味3 <sup>しやみせん</sup> 三味線4 <sup>しゆみ</sup> 趣味7 <sup>しゆみくわん</sup> 趣味観1 <sup>なうみそ</sup> 脳味噌1 <sup>にがんぼし</sup> 苦味走つ1 <sup>みそすり</sup> 味噌播1
	あぢ	<sup>あぢ</sup> 味1 <sup>あぢは</sup> 味い1 <sup>あぢは</sup> 味つ1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
1415	妹	1
	いもうと	<sup>いもうと</sup> 妹 1
2884	味	3
	マイ	<sup>しゆぎやうざんまい</sup> 修行三昧 1 <sup>はいざんまい</sup> 俳三昧 1 <sup>まいしや</sup> 味者 1
1603	寐	38
	ビ	<sup>ごび</sup> 寤寐 1
	ね	<sup>ね</sup> 寐14 <sup>ねい</sup> 寐入る 2 <sup>ね</sup> 寐かし 2 <sup>ね</sup> 寐かす 1 <sup>ねかへ</sup> 寐返り 3 <sup>ねこ</sup> 寐込む 1 <sup>ね</sup> 寐ころん 1 <sup>ねころ</sup> 寐転ん 1 <sup>ね</sup> 寐ぼけ 1 <sup>ねまき</sup> 寐巻 1 <sup>ね</sup> 寐よう 1 <sup>ね</sup> 寐ら 3 <sup>ね</sup> 寐る 5
	いぬ	<sup>いぬ</sup> 寐る 1
2520	抹	2
	マツ	<sup>いちまつ</sup> 一抹 1 <sup>とまつ</sup> 塗抹 1
4427	珠	2
	たま	<sup>たま</sup> 珠 2
3606	殊	1
	シユ	<sup>とくしゆ</sup> 特殊 1
6350	蛛	4
		<sup>くも</sup> 蜘蛛 4
5196	策	1
	サク	<sup>とくさく</sup> 得策 1
6061	菜	1
	ライ	<sup>ほうらい</sup> 蓬菜 1
4175	煉	2
	ねる	<sup>ねあ</sup> 煉上げ方 1 <sup>かた</sup> <sup>ねりやうかん</sup> 煉羊羹 1

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

検字番号	字種	使用頻度
5508	練	7
	レン	<sup>みれん</sup> 未練 4
	ねる	<sup>ね</sup> 練り 1 <sup>ね あ</sup> 練り上げ 1 <sup>ね</sup> 練る 1
6778	課	1
	カ	<sup>につか</sup> 日課 1
6569	裸	12
	ラ	<sup>せきら</sup> 赤裸々 1 <sup>ら たいぐわ</sup> 裸体畫 3 <sup>ら たい びじん</sup> 裸体美人 1
	はだか	<sup>はだか</sup> 裸 1 <sup>はだか</sup> 裸体 5 <sup>はだかせつけん</sup> 裸石鹼 1
6023	菓	9
	カ	<sup>お かし</sup> 御菓子 1 <sup>だ が し</sup> 駄菓子 2 <sup>だ が し ばこ</sup> 駄菓子箱 1 <sup>かし</sup> 菓子 1
		<sup>かし ざら</sup> 菓子皿 2 <sup>かし ばこ</sup> 菓子箱 1 <sup>かし ばち</sup> 菓子鉢 1
2013	彩	11
	サイ	<sup>さいしき</sup> 一彩色 1 <sup>しきさい</sup> 色彩 1 <sup>さいくわう</sup> 彩光 1 <sup>さいくわん</sup> 彩管 1 <sup>さいしよく</sup> 彩色 3
	いろどる	<sup>いろ</sup> 彩どる 3 <sup>にじ</sup> 彩虹 1
2582	採	1
	とる	<sup>きくをとるとうりのもと</sup> 採菊東籬下 1
6035	菜	8
	な	<sup>な はな</sup> 菜の花 8
3905	淋	7
	リン	<sup>りん り</sup> 淋漓 1 <sup>はつはく りんり</sup> 潑墨淋漓 1
	さびし	<sup>お さみ</sup> 御淋しかろ 1 <sup>さび</sup> 淋し 1 <sup>さび</sup> 淋しい 1 <sup>さみ</sup> 淋しい 1
		<sup>さび</sup> 淋しから 1
4459	琳	1
	リン	<sup>りんらう</sup> 琳琅 1
2060	徠	5
	ライ	<sup>そらい</sup> 徠徠 4 <sup>ぶつ そらい</sup> 物徠徠 1

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

検字番号	字種	使用頻度
4172	煤	3
	すす	<sup>すす</sup> 煤け 3
2625	揉	2
	もむ	<sup>も</sup> 揉ま 1 <sup>も</sup> <sup>あげ</sup> 揉み上 1
349	傑	2
	ケツ	<sup>けつさく</sup> 傑作 1 <sup>がうけつ</sup> 豪傑 1
	磔	1
	レキ	<sup>てきれき</sup> 的磔 1
2707	操	1
	サウ	<sup>せつさう</sup> 節操 1
5597	繰	4
	くる	<sup>く</sup> <sup>かへ</sup> 繰り返す 2 <sup>たぐる</sup> 手繰 1 <sup>た</sup> <sup>く</sup> <sup>よ</sup> 手繰り寄せ 1
6257	藻	1
	も	<sup>も</sup> 藻 1
994	喋	1
	テフ	<sup>てふてふ</sup> 喋々し 1
6408	蝶	3
	テフ	<sup>てふ</sup> 蝶 2 <sup>てふてふ</sup> 蝶々 1
4005	漆	1
	うるし	<sup>しゅうるし</sup> 朱漆 1
3101	膝	6
	ひざ	<sup>ひざ</sup> 膝 4 <sup>ひざがしら</sup> 膝頭 2
2596	探	9
	タン	<sup>たんでい</sup> 探偵 7
	さぐる	<sup>さ</sup> 探ぐつ 1 <sup>さ</sup> 探ぐり 1



日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

検字番号	字種	使用頻度
3888	深	12
	シン	<sup>しゆかくしんせん</sup> 主客深淺 1 <sup>しんりん</sup> 深林 1
	ふかい	<sup>ふか</sup> 深い 2 <sup>ふか</sup> 深き 2 <sup>ふか</sup> 深く 2 <sup>ふか</sup> 深さ 2 <sup>つつし</sup> <sup>ふか</sup> 慎み深い 1 <sup>みやまつばき</sup> 深山椿 1
1787	嶮	1
	クワウ	<sup>さうくわう</sup> 崢嶮 1
6594	襟	5
	えり	<sup>えり</sup> 襟 2 <sup>えりあし</sup> 襟足 1 <sup>はんえり</sup> 半襟 2
4161	焚	3
	たく	<sup>た</sup> 焚い 2 <sup>た</sup> 焚きつけ 1
8727	麓	1
	ふもと	<sup>ふもと</sup> 麓 1
3593	歴	1
	レキ	<sup>えつれき</sup> 閱歴 1
8743	麻	3
	マ	<sup>ごま</sup> 胡麻ねじ 1
	あさ	<sup>あさぶ</sup> 麻布 1 <sup>しびれ</sup> 麻痺 1
2437	摩	2
	マ	<sup>あんま</sup> 按摩 1 <sup>まやしま</sup> 摩耶島 1
8746	磨	2
	さしまねく	<sup>さしまね</sup> 磨い 1 <sup>さしまね</sup> 磨く 1
4926	磨	10
	マ	<sup>しじんろうま</sup> 漸盡龔磨し 1 <sup>せうま</sup> 銷磨し 1 <sup>だるま</sup> 達磨 4 <sup>まめつ</sup> 磨滅し 1
	する	<sup>す</sup> <sup>さ</sup> 磨り去る 1 <sup>するすみ</sup> 磨墨 1
	ひく	<sup>ひ</sup> 磨き 1

日本語教育に見る漢字使用について (萩原)

検字番号	字種	使用頻度
8474	魔	5
	マ	お じやま 御邪魔 1    じやま 邪魔 2    すいま 睡魔 1    まりよく 魔力 1
8038	靡	5
	なびく	なび 靡い 2    なび 靡きかね 1    なび 靡く 1    なび 靡こう 1
5980	茶	53
	チャ	ちや 茶 9    ちや 茶 5    お ちや 御茶 7    お ちやだい 御茶代 1    お ちやや 御茶屋 1 こげちや 焦茶 1    ちやじん 大茶人 1    む ちや 無茶 1    しぶちや 澁茶 1    ばんちや 番茶 1 め ちやめ 減茶減茶 1    ちやいろ 茶色 3    ちやがま 茶釜 3    ちやき 茶器 1    ちやじん 茶人 2 ちやたく 茶托 2    ちや だんす 茶簞笥 1    ちやばたけ 茶晶 1    ちやみせ 茶店 4    ちやや 茶屋 1 ちやわん 茶碗 6
6094	葉	28
	は	は 葉 10    ことば 言葉 15    はうら 葉裏 1    はらん 葉蘭 1 もみじ 紅葉 1
6229	藁	3
	わら	わらざうり 藁草履 2    わらやね 藁屋根 1
6219	薬	2
	ヤク	やくしゆや 薬種屋 1
	くすり	くすり 薬 1
1119	困	11
	コン	こんく 困苦 1
	こまる	お こま 御困り 2    こま 困つ 2    こま 困り 1    こま 困りや 1    こま 困る 4
7813	閑	12
	カン	あんかん 安閑 1    かんくわくうていにおち 閑花落空庭 1    かん が 閑雅 1    かんじん てき い 閑人敵意 1 かんせい 閑静 2    しんかん 森閑 1 のどか 長閑 5



(朱) ⇨ 珠 [玉+朱 (ノ+一+木)], 殊 [歹+朱]

: 蛛 [虫+朱]

(束) → 辣 [辛+束 (口+木)]

(來) ⇨ 徠 [彳+來 (人+人+木)]

(東) ⇨ 凍 [冫+東 (日+木)] : 陳 [阜+東]

: 煉 [火+東], 練 [糸+東], 鍊 [金+東]

(果) ⇨ 課 [言+果 (日+木)], 裸 [衣+果] : 菓 [艸+果]

: 巢 [ツ+果]

③ (采) ⇨ 彩 [采 (爪+木) +彡], 菜 [艸+采], 採 [手+采]

(林) ⇨ 淋 [水+林 (木+木)], 琳 [玉+林]

(某) ⇨ 謀 [言+某 (甘+木)], 媒 [女+某], 煤 [火+某]

, 榦 [木+某]

(柔) ⇨ 揉 [手+柔 (矛+木)]

(桀) ⇨ 傑 [人+桀 (舛+木)]

(樂) ⇨ 皦 [白+樂 (幺+幺+白+木)]

④ 操 [手+品+木], 燥 [火+品+木], 繰 [糸+品+木]

⇨ 藻 [艸+水+品+木]

喋 [口+世+木], 牒 [月+世+木], 蝶 [虫+世+木],

諜 [言+世+木], 鰈 [魚+世+木], 櫟 [木+世+木]

⑤ 漆 [水+木+人+水], 膝 [月+木+人+水]

探 [手+宀+儿+木] : 深 [水+宀+儿+木]

### (c) 冠を形成する漢字■

① 杳 [木+日]

(李 [木+子] : 杏 [木+口] : 杳 [木+工] : 杳 [木+公] :

杰 [木+火] : 查 [木+且])

② 禁 [林 (木+木) +示] ⇨ 襟 [衣+林+示] 麓 [林+鹿]

焚 [林+火]

(楚) ⇨ 礎 [石+林 (木+木) +疋]

③ 歴 [厂+林 (木+木) +止] ⇨ 瀝 [水+歴], 癩 [疒+歴],  
輜 [車+歴], 霪 [雨+歴]

曆 [厂+林 (木+木) +日]

麻 [广+林 (木+木)] ⇨ 魔 [麻+鬼], 摩 [麻+手],  
磨 [麻+石], 麼 [麻+幺],  
麾 [麻+毛] : 靡 [麻+非]

(D) 脚を形成する漢字■

① 集 [隹+木]

② 策 [竹+束]

③ 茶 [艸+ (余) 八+木], 葉 [艸+世+木], 藁 [艸+高+木]

④ 築 [竹+工+凡 (丸) +木], 藥 [艸+樂 (幺+幺+白+木)]

(E) 構を形成する漢字■

① (木) → 困 [口+木] ⇨ 梱 [木+困 (口+木)]

→ 閑 [門+木]

② 闌 [門+東 (東)] ⇨ 蘭 [艸+門+東],

瀾 [水+門+東], 爛 [火+門+東]

欄 [衣+門+東], (欄) [木+門+東]

\* 符号「⇨」は同音系統、「→」は異音系統、「,」は同属同音系統、「:」は同属異音系統であることを示す。

まず、この漢字分解表について述べておく。(A) ■①は木を篇に置く漢字である。(A) ②は木に指事・会意文字を加えた「束」「束」「果」を篇に置く漢字である。(A) ③は他字と木とが合成されて篇にくる漢字である。(B) ■①は木を旁に置く漢字である。(B) ②は木に指事・会意文字を加えた「本」「未」「末」「朱」「東」「果」「來」を旁に置く漢字である。(B) ③は他字と木とが合成されて旁にくる漢字である。(B)

④は二種類の他字と木とが合成されて旁にくる漢字である。(B) ⑤は三種類の他字と木とが合成されて旁にくる漢字である。(C) ■①は木を冠に置く漢字である。(C) ②は木を二つ合成した林を冠にした漢字である。(C) ③は②の漢字に垂れを加え、冠にした漢字である。(D) ■①は木を脚に置据えた漢字である。(D) ②は木に指事文字を加えた「束」を脚に置据えた漢字である。(D) ③は二種類の他字と木とが合成されて脚に置据えた漢字である。(D) ④は三種類の他字と木とが合成されて脚に置据えた漢字である。(E) ■①は構を持つ「口」「門」と合成した漢字である。②は木に指事・会意文字を加えた「束(束)」と構を持つ字とが合成したものである。

そして、(A) ①の「相」は漢語林などの字書には目部に収録されているが、字書を繙く側には木篇を尋ねるケースが間々あり、これを木篇でも掲示して「目部六六九ページ」を見ることとしている漢字である。

(C) の「禁」は示部、「麓」は鹿部に収録されているのに「楚」は木部にあつて疋部ではなく、漢語林は「木部五二二ページ」を見ることを指示している。このように、木の要素を含む漢字群をどう処理してゆくかが課題となる。方法としては木篇の構成要素を含むグループと系統付けを施し、一括した上で上記の如く漢字分解表を作成し、木の要素を明らかにして教示することが望ましいのではなからうか。この場合、単純なる構成要素の漢字群「床」[广+木]とさらに派生要素をもつ漢字群(系統性のあるものないものが生じてくる)「麻」[广+林(木+木)] ⇨ 魔[麻+鬼], 摩[麻+手], 磨[麻+石], 麼[麻+彡], 麿[麻+毛], 靡[麻+非]などを適格に明示する必要がある。上の表中「茶」は木の字形とやや異なることにまず気がつかせねばならない。しかし、現実の茶は樹木であるからして「現実との突き合わせ」という観点からここに取り組むこととした。すなわち、異なる語源を配置している。そしてこの漢字分解表は木篇に留まることなく他の部首にも及ぶものとなる。こ

の漢字分解表自体まださらに改良をかさねていかねばならないと考えている。大方の御教示を仰ぐしだいである。

### 漢字構成要素に基づく学習の応用

漢字を分解することによりその構成要素を割り出すことが出来るようになったところで、これを確実なものにして行くために、分解した漢字をある共通母体を中心に据えて漢字の広がりや合成して見ることにした。この方法は古来日本では様々な形態を用いて実際に行なわれてきたものである。今日知られるものに『瑣玉集』（室町時代）『小野篁歌字盡』（江戸時代）がある。この他ことば遊びと関連した詩歌や俳諧などに見いだすことができる。その一つ「口」を共通母体とし、上に「五」右に「隹」下に「止」左に「矢」とした「知足の蹲踞（つくばい<sup>注10</sup>）」を水戸の常磐神社隣の義烈館前庭で見たことがある。これは「吾唯足知」と合成され、時計周りに「吾唯足るを知る」と読むのである。この他にもことば遊びとして漢字の分解合成が行われなどして紹介されてはいるが、実際の教育の現場では活用されていないのが現状かと思われる。これをアメリカ人留学生と一緒に数度にわたって行ったのである。方法として折り紙を利用し、これに各自が習得した漢字を書き込んでいくつかの共通母体を元に分解、合成、派生を繰り返していった。この結果得られた漢字のグループをひとまとめとし、漢字の持つ表意性に近づこうと考えたのである。

最初はへんてこりんな漢字が誕生したことは言うまでもない。「木と水（沐）」や「木と土（杜）」の組み合わせならいざしらず、「木と山（柚）」や「木と花（椀）」の国字が突如表現される結果ともなった。これに意味づけをさせ、最後に日本語での読みと意味を添え、「沐」は「沐浴（モクヨク）水で髪や体を洗う」、「杜」は一字では「もり」、熟字として「杜鵑（トケン）ほととぎす一鳥の名」と用いる字種であることを教示して

いくのである。

問題は次の国字の読みからくる意味づけと字種にはかならない。「杣(そま)材木をとるために木をうえた山」は「杣道(そまみち)」、「杣人(そまびと)きこり」と話が進むのだが、「栂(もみじ)」はというと木に咲く花のイメージは「さくら」が強く、それに匹敵する晩秋の野山の木々の葉が赤、黄、橙と花のように色付き染まった状態を「もみじ」と説明することに苦慮したことは言うまでもない。この色彩が「紅葉(もみじ・コウヨウ)」という漢字になって、これを一字で表現されたとは簡単にはいかなかった。そして何よりも字種が後にも先にもこれだけであることを納得させることにもあった。幸い季節が到来し、このイメージが北海道の恵まれた自然環境でとらえられ、こうした繰り返しの結果、一つの漢字学習体系が完成していったのである。今回の報告は本学北海道キャンパスに設置されていた語学研究所でのささやかな取組をもとにまとめたものである。

[注]

- 1 日本人としてある程度の教養を有する社会一般のこどもの親をここでは教える側として設定したものである。日本語の専門家ではないことを明示しておく。
- 2 日本側からの調査として文化庁刊の『中国語と対応する漢語』(昭和53年)と早稲田大学語学研究所日本語科による『漢字音読語の日中対応』(文化庁刊昭和58年刊)とが知られているが、この調査報告についてはインフォーマントの選択上批判の多い結果を産み出している。  
石山福治編著『支那語大辞典』にて見るに「鮎」は「なまず/あゆ」、「桂」は「もくせい/かつら」、「くぬぎ」は日本では「橡・栲・榎・櫟・櫟(櫟)・櫟」の七字で表記されるが中国では「橡・櫟」の二字だけで、「栲」は「栲々」で生き生きしているさまを意味する。また、木篇の漢語では「氣樂(きらく)」「素朴(そぼく)」などが記載されていないことから日中間で食い違うものといえるのではなかろうか。
- 3 武部良明氏著「日本語教育と漢字」(雑誌「日本語学」1986年6月号)に非漢字系学習者と漢字系学習者について詳細に報告がなされているので稿を起こ



## 日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

さないこととする。

- 4 接続詞「即ち」「併し」や副詞「更に」「予て」「既に」、はては助詞の「許り」「乍ら」が表示されているため、入力してしまう恐れがある。漢字講座=10『現代生活と漢字』（明治書院刊）の斎賀秀夫氏著「現代人の漢字感覚と遊び」8 おわりにの章（二八〇頁）でワープロによる気掛かりな現象として取り上げている。
- 5 同音異義語として「こうこう」と入力するだけで口腔、高校、航行、孝行、後攻、交媾、膏盲の七語が表示される。「かんこう」も刊行、完工、感光、慣行、敢行、観光の六語が表示されるという具合である。
- 6 金田一春彦氏「木の名・草の名」（言語生活 NO. 413 1986、「特集・植物のことば」筑摩書房）の一段「日本人と植物」に「樺島忠夫氏の編になる『事典日本の文字』の中に、国字を集めた欄があるが、最も多いのは魚偏の文字で、第二は木偏の文字である。これからも、日本は、魚の国、木の国であることが知られる。」とあって、実は国語学秋季大会（1985年10月26日仙台於）の講演も拝聴している。このことが今回の日本語学習の起点となっている。
- 7 日本近代文学大系25「夏目漱石集Ⅱ『草枕』（角川書店刊）を底本とし、採取したものである。さらに、新潮社文庫『草枕』をもって新字体と旧字体とを確認した。
- 8 筆順はどうして学習しなければならないかと問われることがある。楷書で書かれた「上」などは筆順は無視できるかもしれない。せいぜい後で気付くのは「考」の五画めのはいりぐらいのわずかな漢字だけであろう。しかし、行書や草書で書いたものを読み取るためにはやはり、正しい筆順をマスターしておかないと正確に文書を読むことができないのである。やはり、漢字習得後のある時期に確認することが臨まれよう。  
中国人（台湾）留学生については上記の限りでない。周錦樟氏論文「日中漢字筆順の違いについて」（輔仁大學「日本語日本文学」第十三輯中華民國七十六年十月刊）に詳細な報告がなされている。
- 9 「茶」と「荼」の字の考察については林恵一氏論文『康熙字典』の「荼」について」（書陵部紀要第132号昭和55年刊）に詳しい。
- 10 「知足の蹲踞」は京都竜安寺にあって、徳川光圀公（水戸藩二代藩主。『大日本史』編纂及び『参考太平記』集録）の寄進されたものとある。「吾唯足知」は視覚類似とみる「口」を共通母体としているが、本来の語源意識は一切関与していないことに着目されたい。
- 11 榊は「もみじ」と訓読したが、JIS規格による水準漢字表ではこれを「樺」の略字としてだけとらえ、「かば」の訓として第一水準区点番号1981か16進3371

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

（情報交換用漢字符号系 C6226-1983）に表示されているものである。

- 12 正式名称は駒沢大学北海道語学研究所（昭和46年4月からアメリカ・カナダの大学を卒業した者又は在籍者を対象とする）で、私は昭和61年度生と62年度生を対象に取り組んだ。

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

表 1

漢字	音	訓	他	合計	字種
様	156	48	4	208	29
來	16	157		173	20
本	66			66	30
木	11	13	17	41	15
構	12	19		31	8
松		26		26	3
枝		23		23	4
樂	16	7		23	12
果	9	11	1	21	9
東	14	2		16	7
極	6	10		16	9
樹	7	7	2	16	8
村	12	3		15	9
横		14	1	15	9
枚	14			14	5
柑	14			14	4
根	4	10		14	4
櫻		14		14	2
棚		13		13	5
椿		13		13	3
椽	12			12	4
机		12		12	1
末	2	7	2	11	3
染		11		11	9
模	11			11	3
橋	1	10		11	7
枕		10		10	2
未	2	7		9	3
杓	1		8	9	3
格	9			9	5
棠	9			9	5
柔		8		8	3
柳	1	7		8	2
梵	7			7	1

漢字	音	訓	他	合計	字種
業	7			7	3
槽		7		7	2
機	5	2		7	6
欄	7			7	3
權	7			7	4
杏	6			6	2
柱		6		6	3
案	6			6	4
棄	2	3	1	6	5
板	1	4		5	4
架	5			5	3
植	2	3		5	4
棒	5			5	5
材	4			4	2
柄		4		4	4
森	4			4	4
棟		4		4	1
標	3		1	4	4
朱	3			3	3
杉		3		3	1
杳	3			3	2
林	3			3	2
查	3			3	2
柵	3			3	1
株		3		3	2
桃	2	1		3	2
條	3			3	1
棕	3			3	3
椀	3			3	1
榮	2	1		3	3
樓	3			3	3
檢	3			3	3

\*以下省略

日本語教育に見る漢字使用について（萩原）

表2

漢字	音	訓	他	合計	字種
茶	54			54	20
味	41	3		44	23
寐	1	37		38	15
体	35		2	37	21
葉		27	1	28	5
親	3	22		25	7
相	10	13		23	14
床	4	17		21	9
保	13	5		18	6
想	14	1		15	12
頼		14		14	8
閑	7		5	12	7
深	2	9	1	12	8
裸	5	2	5	12	6
彩	7	3	1	11	7
困	1	10		11	6
雜	10	1		11	9
刺	8	2		10	4
箱		10		10	4
磨	7	3		10	4
菓	9			9	7
探	7	2		9	3
菜		8		8	1
淋	2	5		7	7
練	4	3		7	7
刹	6			6	2
鉢	6			6	3
膝		6		6	2
襟		5		5	3
徠	5			5	2
蘭	5			5	3
魔	5			5	4
靡		5		5	4
休	1	3		4	4

漢字	音	訓	他	合計	字種
蛛			4	4	1
繰		4		4	3
霜	1	2		3	3
味	3			3	3
煤		3		3	1
藁		3		3	2
蝶	3			3	2
麻	1	1	1	3	3
焚		3		3	3
廂		2		2	1
抹	2			2	2
珠		2		2	1
藥	1	1		2	2
煉		2		2	2
欄	2			2	2
殺		2		2	2
新	1	1		2	2
薪		2		2	1
揉		2		2	2
摩	2			2	2
麾		2		2	2

\*以下省略